

会 議 議 事 録

1 会議名	「長岡の子ども50冊」(仮) 第1回 選定委員会
2 開催日時	令和3年8月18日(水曜日) 午前10時から午前11時まで
3 開催場所	中央図書館 講座室1
4 出席者名	(委 員) 錦恵美子委員長 丸田俊一副委員長 淵本紀子委員 中村厚子委員 (事務局) 佐藤中央図書館長 中村館長補佐 松矢奉仕係長 井口主査 渡邊主査
5 欠席者名	なし
6 議題	議事1 「長岡の子ども50冊(仮)」概要説明 議事2 「長岡の子ども50冊(仮)」について ①名称・冊数 ②リストの内容について ③リストの活用方法について
7 審議結果の概要	・議事1について 令和4年2月までに、年代別おすすめ図書リストを作成する。 ・議事2について 全体で100冊程度とし、名称については親しみやすいものを検討する。 内容について次回委員会で検討を続ける。

8 審議の内容	
委員長	議事（１）「長岡の子ども５０冊（仮）」の概要について事務局から説明をお願いします。
事務局	「長岡の子ども５０冊（仮）」を作ることになったのは「第二次長岡市子ども読書活動推進計画」の中に、年齢別のおすすめ絵本ガイドの作成・設置ということが新規事業の目標として挙げられているということから始まっています。今年度中に図書のリストを決定し、令和４年度にリストを印刷し、子どもたちに配布、各図書館におすすめ図書のコーナーを設置したり、スタンプラリー的なイベントを行う等の活用を考えています。 対象年齢については０歳から中学生までと考えているが、委員のみなさんのご意見をお聞かせいただきたいと思います。 選定方法については、市役所の関係課（学校教育課、子ども・子育て課、保育課、中央図書館）担当職員が集まるワーキング会議を行い、選定委員会を３回開催し検討、決定します。 スケジュールについては、７月に第１回関係課ワーキングを行いました。第１回選定委員会を本日、第２回選定委員会を９月に予定しています。８月は市民アンケートを行い、広くおすすめ本の募集を行っています。各図書館に応募箱を設置し、図書館ホームページからも投票できるようになっています。９月に第２回選定委員会、１０月に２回目の関係課ワーキングを行い、１月に第３回の選定委員会を開催、２月にリストを決定予定です。
委員長	ご質問がありましたら挙手をして質問をお願いします。
副委員長	概要の中に選定後の活用方法についてまとめていくということだと思うが、読書推進イベントが挙げられている背景はありますか。
事務局	毎年夏に３０冊読むと表彰状をもらえる「サマーチャレンジ」というイベントを行っていますが、これをおすすめ本で行えないかと考えています。この他にもアイデア出しを行い、関係課ワーキングで検討して選定委員会でお知らせしたいと思います。 おすすめ本の募集アンケートを、本を好きな子どもたちが投票して

委員	くれるシステムにするといいですね。お友達にははづかしくて言えない子も、アンケートは書いてくれるかもしれないですね。
事務局	「銭天堂」シリーズや「星新一ショートショート」など、子どもの字と思われる投票もあります。
委員長	投票箱は子どもの本のコーナーに置いてありますか。
事務局	置いてあります。
委員長	ぜひ、子どもたちの意見も聞きたいですね。
副委員長	子どもの視点は大切だと思います。図書館の応募箱だけだとなかなか集まらないかもしれないが、学校に依頼というのも、今の状況では厳しいものがありますね。
図書館長	そうですね。学校のご負担になりそうで遠慮した方がよいですね。
委員長	他のご意見はありませんか。
委員長	では協議事項①名称と冊数について事務局から説明をお願いします。
事務局	冊数について、最初は50冊と考えていました。 ベビーパック 30冊で、キッズパック 45冊選んでいる。これで小さい子のリストにしようと思っていましたが、選定を進めるうちに、疑問が出てきました。3冊セットという特徴のため、形の大きいものやカテゴリしづらいものは選ばれないため、改めてリストとして作った方がよいと思い、0歳から中学生まで選んだ。今200冊ほど選んでいるが、100冊に絞り込みたいと思っています。多くても選びづらく、冊数について委員のご意見をお聞かせいただきたいと思います。 名称については、「この本読んで～長岡の子ども 100冊」「いつもそばに本を～長岡のこどもたちに読んでほしい 100冊」の二つを候補として挙げました。 新潟市は「うちどくブックリスト」を作っており、長岡市より年齢

	の分け方が細かく、新潟市は0－2歳、2－3歳、3－5歳、と細かくなっています。分け方についてもご意見をお聞かせいただければと思います。冊数については新潟市は各年代で16冊、小学生は低・中・高学年で各16冊。見附市は乳幼児100冊、小学生で120冊、中学生120冊。上越市は子どもの本ブックリストとして、小学校低学年、中学年、高学年それぞれ4冊ですが、毎年リストを作っています。冊数についても各市町村ごとに違いがあります。 ひとまず100冊と考えていますが、もっと絞った方が良いか、ご意見をお願いします。
委員長	質問がありましたらどしどし質問してください。
委員長	名称ですが、どんな風にしますか。 冊数については、漠然と100冊、よりも年齢別の方が良いと思います。どうでしょうか。
委員	名称は仮なんですけど、固いなという印象があって、もうちょっと柔らかいサブテーマがつくといいな、と思ったことと、幼児教育に携わっていると、0、1、2歳は発達年齢があるので、新潟市のように0と1・2は分けた方がよいのではないかと思います。発達によって、0歳と2歳とでは、言葉が出ているかどうかもある。年齢の区切り方を変えてみてはどうでしょう。
委員長	0歳だと赤ちゃん絵本ですよ、それから言葉が話せるようになった時の絵本など。新潟市の図書館の分け方は0－2歳 2－3歳、3－5歳ですね、名称は「うちどくブックリスト」。皆さんと意見を交換しながらタイトルを決めていっていいのではないのでしょうか。
委員長	100冊というと冊数が多いように感じますが、年齢ごとに区切っていくとそんなに多くない。新潟市の場合も0－2歳で16冊、2－3歳で16冊です。年齢の分け方と、冊数をどう考えていくか検討したいですね。新潟市のリストはコンパクトで見やすく、良い本がえらばれていると思います。分厚い冊子のようなものもありますが、この方がコンパクトで使いやすい、見やすいと思いますがいかがでしょう

	か。
委員	ベビーパックのはカラフルでいいですね。かわいい。 今の親御さんには、視覚に入ってくるのでよいと思います。
委員長	ベビーパックの袋の大きさはどんな大きさですか？
事務局	A3サイズです。
委員	これ以上大きな本はリストからはずれているのね。
委員長	ベビーパック、キッズパックとブックリストとを同時に行うというのはどうですか。
委員	ベビーパックとキッズパックはそのまま続けて、リストはリストで作るということですね。 絵本をは子どもだけではなく誰でも読めると思うので、0歳児の本を私が読んでもいいし、年齢別に分けるのは自分としては抵抗があります。大人が絵本なんて、とは最近はいよいよ言われなくなったけれど。子どもを持たなければたぶん、絵本には接していなかったかもしれないが、本が好きで、子どもが大きくなっても（ボランティアを）続けてきた。小さい頃の絵本を大きくなって読み返してみということもあります。絵本を読んでもらった親子の記憶を残してあげたい。受験の時も絵本を再び読むとこころが落ち着く、いろんな絵本に出会ってほしいという思いがあります。 家の中に本がないおうちがあるんですって。新聞もないおうちもあるという話を聞いています。長岡市はブックスタートがあるので、必ず1冊はおうちに本がある。それだけでも違うのでは。ブックスタートでは赤ちゃんの図書館の貸出カードも作っています。根っこをきちんとすると広がっていくのでは。誰でもいい。昔読んで面白かった本とか、小さいときに読んだ本を教えてほしい。名称は「みんなが楽しい50冊」「みんながすすめる50冊」「お父さんもお母さんも読んだ50冊」子どもだけでなく、みんなが子ども時代を経てきているので、小さい時の記憶は大切。積んでおくだけでもいいから、本がある家庭

	環境があるといいと思います。
事務局	保育園の保護者の方に、週何回くらい絵本をよんでいますか、とアンケートを取った時、週0回の方が5パーセント。それをなくしたい。
事務局	個人差もあるので、年齢は、子どもの本を選ぶ目安。
委員長	目安なんでしょうね。
委員	子育て中で不安を感じる人は、目安が絶対になってしまう方もいるかもしれない。
委員長	年齢は目安であるということですね。他にご意見がありますか。
委員	ずっと保育現場にいて、今の親は忙しいですね。保育園に、絵本の本棚がありますが、借りる人はいつも決まっていて、借りない保護者は忙しいとか、いろんな家庭があって、（絵本を読んでもらっている子とそうではない子と）差がありすぎる。保育士が読んでやったり、おはなしボランティアがいるときはちゃんと聞くんだけど、家庭では読んでもらっているかどうか、家庭によって差があります。今の時代ゲームやスマホが多くなってきているので、0歳から読んであげれば、本好きの子が育つと思うが、保護者の方が働いて、土日は遊びに行って、と絵本を読む余裕のない家庭もある。保育園では先生方が読んであげています。子どもはほんとに本が好きで、園でも膝の上で読んで読んでと言ってくるんです。
委員長	実際、本嫌いな子いないんですよ。そして、絵本を1冊読むのに3分から5分、12, 3分で3冊くらい読める。わずかな時間で毎日繰り返すとどれだけ子どもが幸せな豊かな気分になるというんですが、なかなか難しい。たった5分、それで子どもがどれだけ喜ぶか、というのを保護者の方に言いたい。入園式の時に声を大にして言いたいですね。
委員	そう思います。校長先生、小学校ではどうですか。

副委員長	低学年の子は本が好きなので、ちょっとした働きかけがあれば、袋を持って図書室に行って借りてきている。図書委員会でもスタンプラリー等の活動がある。図書ボランティアも計画的に入っています。
委員長	子どもたちは読む気まんまんですね。読書のきっかけを作ってあげたい。字を覚えないうちは、耳からはいっていく絵本はいいと思う。
副委員長	いろんな家庭環境の子どもたちがいる。全体的にみると概ねよい環境だと思っても、一人ひとり見ていくと違いがある。ただ、小さい時ほど、0歳とか、2歳とか、幼児教育の中で大事なんだろうなと思います。
委員長	改めて、リストを選書する意義が問われる。頑張ってやっていきたいと思う。 協議事項の②リストの内容について説明をお願いします。
事務局	(リスト内容の説明) 司書が読んでほしい本、長い間子どもたちに読み継がれてきた本を紹介したいと思い選んだ。一人でも多く子どもたちに、子ども時代に本と出会っていただきたいと思います。 【0 1 2歳向け】 中村委員からもお話がありましたが、0 1 2歳の間で発達段階はだいぶ違う。わらべ歌などリズムのある言葉を、シャワーのようにあびてほしい。ブックスタートでもこの点は考慮されている。こういった、言葉がけにつながる本を選びたいと思います。 2歳くらいになるとストーリー性のあるものに近づいていける。うちの方のぬくもりを感じながら、お話の楽しさを経験できるような本を選んでいきます。 【3 4 5歳向け】 心身ともに成長する時期。お話の中で想像してあそぶことができ、お話で出会ったことを実体験で行うこともできるようになります。0 1 2歳で培った言葉の美しさやリズムカルな日本語の良さを感じることで、想像力を伸ばしていただきたいと思います。言語能力が発達

	する時期で、複雑なストーリーが理解できる時期となる。昔話に親しんでもらいたい時期です。 【小学校低学年向け】 小学校の低学年は心身の成長の著しい時期。学校教育の中でも文字を習い、文字を追うことはできるが、そのことに注力して、お話を楽しめない恐れもあるため、この時期の子どもたちにも、おうちの方が読み聞かせをしてあげてほしいです。何世代にもわたって読み継がれてきた物語を選んでいきます。 【小学校中学年向け】 中学年になると、この時期本を好きになるか、それとも本から離れてしまうか分かれ道になる。この時期に飛び切り楽しい本に出会ってもらいたいと思い、選んでいる。この時期に子どもが楽しいと思う本と図書館がすすめる本の乖離が出てきます。テレビの影響もあり、子どもたちに人気の「銭天堂」シリーズ等、子どもがリストを見てこれなら読んでみたい、と思う本を入れるべきか、読み継がれたよい本を入れるべきなのか迷いが生じ、あえてアニメ化された本も入れています。 【小学校高学年向け】 小学校高学年になるとスマートフォンを持ったりということもあります。読書時間が短くなり、時間の奪い合いになってきます。子どもたちが物語を読んで主人公に共感できる本を手にとってもらいたい。定評のある作品のおもしろさに触れてもらいたいと思います。生きる知恵や勇気を与えてくれる骨太の物語を選んでいきます。 【中学生向け】 中学生は読む力も個人差が出ている。本によってこれからの人生迷ったときに道しるべとなるような本、これから出ていく社会を知ることができる本を選んでいきます。 いずれの年齢にも、郷土を知るような本を入れています。絶版などで入手できない本は見え消しで消してある。もろはしせいこうさんの『走れチビ電』も残念ながら絶版になっています。リストを策定して、地域図書館に設置したり、小学校にもご協力をお願いすることを想定しており購入できない本はリストには選ばないと想定しています。 年代をまたいで選んだ本もある。例えばヨシタケシンスケの『りんごかもしれない』は小学校低学年と高学年の両方に載っています。真の
--	---

	意図を理解するには、高学年がよいのかな、という迷いがあります。 『ひとつぶのお米』も同様に中学年と高学年に選んでいます。 長年読み継がれている本ですと、差別用語のような表現が出てくる場合がある。本によっては、最後に注記のある本もある。 ジェンダーについて、30年前40年前当時のそれぞれの性別による役割が、時代が変わってきている中で、無意識に当時の感覚が植えつけられるのをどのようにとらえたらよいか。昔からの読み継がれている本だからよしとするか、心配事もあります。
委員長	今の説明について質問、ご意見ありましたらお願いします。 どうですか、このリストをごらんになって。
委員	可もなく不可もなく、だいたい知ってる本が入っているかな、と思います。
委員	どういう基準、コンセプトで選ばれたのかなと。 エルマーとかスイミーとかを題材に年長さんがが劇をしているので、小学校低学年に入っていて「保育園が高度なことをしているのかな」と思います。
事務局	対象年齢については、迷った部分もあります。幼稚園保育園でも読める子は長い物語を読め、個人差がある。低学年だと、自分で読むことと読んでもらうことを考えると…
委員長	その年齢は、自分で読んでもたどたどしく読むことはできるかもしれないが内容をつかむことができていることがあります。ちょうど読んでもらう時期と重なり、そんなときの選書の仕方があるんです。自分で読めることも想定して、でも基本的には読んでもらう。絵本というものは、読んでもらうことを想定して作られているのが基本。ちょうど重複する時期ということで、そういったことを想定して選書したらどうでしょう。
委員	絵本は基本は読んでもらうことだと思うので、自分一人で読んで心が動かされるのか、膝にだっこされて読んでもらって、そこから広が

	りができてくると思います。
副院長	スイミーは2年生の教科書に載っています。主人公の心情の波を含めて読解して、子どもたちが読み深めていく。教科書のものと絵本は全く別物。読んでもらうために、どこに置くか、考えていく、ということですね。
委員	あくまでも年齢だけで読むのではないと周知してもらおう。いろんな年代で読めることを周知してもらおう。誤解のないように。 幼稚園でスイミーやるときは、著作権は関係ないんですか。
委員	園では、職員が脚本を作ったりしていました。
事務局	保育園は教育施設の中でのことなので、劇の動画をウェブサイトアップするということではないので著作権の処理は不要かと思います。
委員	ネットにはあげないでくださいと言っています。
委員長	協議事項③リストの活用方法について事務局から説明をお願いします。
事務局	リストの活用方法について、各図書館にリストのコーナーを設置する、学校や児童館に協力をお願いする、リストを印刷して配布、スタンプラリー等のイベントを考えておりますが、引き続き検討します。
委員	今長岡ではパパママ学級を行っていますか？
図書館長 委員	やっています。対面のものと、オンラインのものを併用しています。 出産前のお母さんに、絵本は創造性を育んだり、こんなにいいんだよと絵本の大切さをお知らせできたら、意識が変わるかなと思う。図書館の誰かが5分くらい行って話してくるとか。
委員長	そう思います。

委員	ブックスタートの時に研修を受けました。受講者の中に妊婦の方もいて、その後出産されて、赤ちゃんに本をよく読んであげていた。妊娠中はお父さんのサポートも大事、お父さんも教育したほうがいいのかな。 妊婦の時は体を休めて暇なときなんですよ。その時に夫婦で、赤ちゃんとお本の関わり、親子のふれあいについて学ぶ機会があるとよい。校長先生、いかがですか？子どもさんに読んだことがありますか。
副委員長	あります、あります。
委員長	赤ちゃん絵本がここ10年、充実している。多くの出版社が出版している。これだけ充実しているので、ぜひ読んでほしいと思う。ぜひ母親学級でこういうのがありますよ、とお知らせしてほしいと思う。ぜひブックリストを配ったらどうでしょう。
委員	妊婦検診に行くから、産婦人科に案内があるといいですね。
委員	今ご夫婦で検診に行かれる方もいるので、そういう機会に絵本の大切さをアピールするとよいのでは。
委員長	いいと思います。
図書館長	妊婦検診やパパママ学級でブックスタートや絵本の案内をしているかどうか調べてみたい。早いうちが効果的ということですね。
委員	ブックスタートで母親、父親は赤ちゃんが食い入るように絵本を見ることに感動する、そこがブックスタートの狙いなんですよ。妊婦さんも加わるととてもよいと思う。長岡は充実していると思います。
図書館長	はい。長岡市は子育て支援に力をいれている。
委員	一番最初にもらった子は、高校生？

事務局	高校3年生
委員長	そういう子たちが成長して、出産して継続されていくとよい。なかなかすぐには成果がでない事業だが、継続してほしい。 科学絵本を入れてほしい。昔とは考えられないくらいに、なかなかいい本が出ている。自分も知らなかったことがたくさん出ている。科学えほんでたくさんの不思議に出会うことができたので、そのおもしろさを子どもたちに薦めてほしいと思います。
委員	科学絵本は何歳くらいが対象ですか。
委員長	小さい子のための絵本もあります。月刊誌で出ている「ちいさなかくのとも」(福音館書店)は1, 2歳から理解できる。絵本で出会ったものと実際に実物に出会った時の喜びもある。 「ダンゴムシ」は裏表紙の表示は4歳からとなっているが、もっと前からでもいいですね。認知力ができてからの本もある。ぜひリストに入れていただきたい。
委員	一番面白かったのは、「ゾウの時間とネズミの時間」同じ回数呼吸して死ぬんですって。ゾウは長生きでネズミは短命。統計的に証明されているっていうおはなしで、子どもたちは好きですね。 「あした花になる」いもとようこさんの本で、カマキリなんだけど、なんでもかんでも殺していたが、花が好きで、生まれ変わってカマキリに似た花になる、という話。
委員長	こういう本だと、自然を見る目が変わってきますね。 この次までに、科学絵本を視野に入れてリストアップしていただきたい。
事務局	対象年齢、選書、リストの絞り込み、科学絵本を追加、リストの活用方法について次回までに用意します。
委員	翻訳もので著作権が切れて新しい翻訳があるので、(ナルニア等)

	読み比べができるといい。そういうところから子どもたちが興味をもつとよい。
委員長	そういったところも検討していきたい。
副委員長	年齢や、冊数は、最後に冊子にするときにリーフレットになったときにちょうど良い数になるといいのかな、と思う。完成形を考えて冊数を考えてもよいのでは。
図書館長	最後に調整が必要と考えている。
委員	絵本に詳しい大先輩と協議したところでは長岡出身の松岡達英。寺村輝夫、長岡の昔話、アンデルセン、「てぶくろを買いに」「ごんぎつね」などがよいと思います。 絵本の読み聞かせ配信ライブをしたらどうですか。そういう斬新な考え方もいいかなと思う。10分とか、短い時間読んであげるのも、親の手を煩わせないでいいのかなあと。
図書館長	いろんな図書館でやっているところもありますが、個人的な意見としては、利用する側が利用するかな？という問題がある。いい子にしてもらいたいときに読み聞かせを選ぶかなと思う。読み聞かせをするのだったら、お母さん、お父さんの声で読んでほしい。
事務局	配信は公衆送信の問題があり、中央図書館では、わらべうたや手遊びの配信をフェイスブックで配信した。コロナ禍でおはなし会ができなかった時、親子でやってほしいと思い配信しました。
委員	動画はプロに任せた方が。Eテレ、お母さん方もテレビを録画して見せたりしている。図書館では、年数回は音楽付きでおはなし会をしている。子どもたちに図書館は静かなところと小さい時から学んでほしいと思う。若い方はどうして騒いじゃいけないのという人もいます。本来静かに本を読むところで年齢に制限がない。私たちが読み聞かせを始めたときに、カウンターに苦情を言う人もいました。今は読み聞かせで大人の人も癒される人もいらっしゃる。だんだん図書館の

